



練馬区立石神井東小学校

令和3年度

# 学校便り

7月号

校長 赤尾 眞司

## 大切なもの

校長 赤尾 眞司

7月になりました。むしむしとする毎日ですが、晴れた日には校庭で元気に遊ぶ子供たちの声が聞こえてきます。あと3週間で子供たちが楽しみにしている夏休みです。この7月は夏休み前の学習のまとめの時期でもあります。1学期に学習したことの定着に努めて参ります。

10日に予定していました学校公開は中止とさせていただきます。詳しくは4面をご覧ください。

先日、新聞の投書欄に、長崎県の中学生の次のような文章が掲載されていました。

『昭和生まれの母は、自分が子供だったころの話をよく聞かせてくれる。友達と遊ぶ時に黒板で伝言をやりとりしたこと、冬の寒い日は制服の下にジャージをきてわいわい登校したこと……。全てがおおらかで自由に思え、うらやましく感じる。今の時代、人々は外で遊ばず、まるでゲームやスマホに取りつかれているようだ。将来、私たちが働き始める頃には仕事はAIに取って代われ、もっと家に閉じこもってしまうのではないか。便利な時代という人もいるだろうが、私は、つまらない、と思ってしまう。便利さは、人の触れ合いなど多くの大切なものを奪っていくのかもしれない。』

(読売新聞6月25日投書より 一部省略)

私も昭和生まれで、ずっと昭和に子供時代を送ってきました。投書の中学生のお母さんより私の方が一世代上だと思います。子供の頃を思い出すと、ゲームもスマホもなく、遊びといえば外で野球、雨が降ると友達の家で、みんなでできるボードゲームに熱中していました。学校の近くには駄菓子屋があり、学校が終わると少ない小遣いを持って駄菓子屋に直行なんてこともあります。その店は、中でお好み焼きを焼いてくれていて、それを食べるのが贅沢でもありました。大変だったのが遊ぶ約束をすること。時間と場所を決めて、それを守ることが絶対条件でした。でも通りかかった友達にも声をかけたりして遊ぶ仲間を増やしていました。空き地で遊んでいてもあまり怒られることもなく、確かにおおらかな時代であったと思います。この中学生は、たくさんの友達と触れ合う楽しさを知っていて、それが母親の思い出と結びついているのだと思います。

もう一つ、私たちの大先輩の校長先生からこのような話を聞いたことがあります。

『世の中には古今東西変わることもない価値観と、時代の文化を背景に変わる価値観とがある。人をあやめぬ、他人の物は盗まない、自分より弱い者をいじめぬ等は変わらない価値観だと思う。しかし、児童生徒の服装や持ち物などは時代の文化を背景に目まぐるしく変わっていく。変わらない価値観は、教師も含めて私たち大人は『そんなことは絶対許されない』と顔を真っ赤にして叱ると共に、時代やグローバルな文化を背景に服装や持ち物等変わる価値観は、頭ごなしに否定するのではなく、子供たちと一緒に考えることが教育の基本だと思う。』

ここに書かれている変わらない価値観と変わる価値観が、前述の中学生の文章にあります。友達と遊ぶこと、人と触れ合うことは変わらない価値観です。集団生活となる学校は、たくさんの違う考えをもつ人と接する場所です。学校生活は、他者と触れ合うことの楽しさを知ると共に、どうしたらよりよい触れ合いができるのかを学ぶ場所になっています。自分の考えを押し通すだけでなく、他者と考えを共有していくことが成長につながることを実感させる指導を進めています。

変わる価値観は、ゲームやスマホではないでしょうか。急速に普及してきたゲームやスマホは、子供たちの生活様式を変えてきています。特に昨年からの新型コロナウイルス感染対策の一つとして、外出が控えられるようになって、その傾向が一層顕著になり、たくさんの友達と遊ぶことが少なくなったように感じます。また、学校に来てゲームのことが頭から離れずに、学習や友達との遊びにも集中できない児童も見られるようになってきました。ゲームやスマホは便利なツールで、今の子供たちの生活に必要なものではありますが、活用方法については、大人も交えて話し合っていく必要があると思います。投書の中で中学生が言っている『AIに取って代われる』『人の触れ合いなど大切なものを奪われる』そのような社会にしないためにも、子供たちと話し合っ一緒に考えていくことが、大人の責任ではないかと思ひます。